

※以下の内容はあくまで現時点の案として方向性を示したものであり、決定事項ではありません。

全般

Q 統合小学校の学校名は、今後どうなるのか。

A 毛呂山小学校と川角小学校の歴史を継承する予定で考えております。
校旗、校章、校歌、学校の沿革誌も同様に考えております。

Q 小中一貫校は、義務教育学校とは違うのか。

A 義務教育学校は小学校・中学校の区切りがない学校になります。
(1～9年生)
小中一貫校は小学校と中学校の区切りがある学校になります。
(小学校1年生～小学校6年生、中学校1年生～中学校3年生)

Q 小中一貫教育を行っていない学校に転校した場合、困ることはないか。

A 各学年の学習指導要領の内容(教科書の内容)の学習活動を行っています。各学年での学習内容の範囲を超えた学習等はいりません。したがって、小中一貫教育を行っていない学校に転校しても、困ることはありません。

Q 小学6年生が最上級生としての経験機会を逃してしまうが支障はないか。

A 小中一貫教育の特徴は、9年間を通したカリキュラムであることです。それぞれの学年に役割をもたせ、達成感や自己肯定感を高める教育を推進します。6年生は、小学校における最高学年としての役割を担ってまいります。また、中学校との関わりが増えることで、中学校への進学不安の解消が期待できます。

Q 校則や学校生活のきまりについては、どうなるのか。

A 小学校と中学校で揃えられるところについては揃えていきます。
現在小・中学校の教員が検討しています。

Q 上履きやカバン、体育着、帽子(小学校)はどうするのか。

A (上履き・カバン)
小・中学校ともに今までのものを使用する方向で検討します。
(体育着・帽子)
毛呂山小学校・川角小学校のものを使用する方向で検討します。
開校と同時に全員が新しいものを使用するのではなく、移行期間を設ける等、保護者の方の負担軽減に配慮してまいります。

Q 児童生徒数が減少することでの課題は何か。

- A 児童生徒数が減少し、学級数が減少することにより次のような課題が考えられます。
- ・クラス替えが全部または一部の学年でできない
 - ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
 - ・運動会、文化祭、遠足、修学旅行等の集団活動、行事の教育効果が下がる
 - ・生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
 - ・児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
児童生徒に与える影響としては、次のようなことが考えられます。
 - ・集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい。
 - ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
 - ・教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
 - ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
 - ・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
 - ・多様なものの考え方、表現の仕方に触れることが難しい
 - ・多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい
- 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」(文部科学省 平成 27 年)より抜粋

Q 小中一貫校になると先生の数が減るのか。【更新】

- A 川角中学校区を例に説明します。(令和1 1 年度推計)
- 【川角小学校】 学級数： 10 学級 教員数： 11 人
- 【光山小学校】 学級数： 8 学級 教員数： 9 人
- ⇒【統合小学校】 学級数： 16 学級 教員数： 18 人
- ※教員数：校長・教頭・養護教諭・事務職員は除く

○町全体の教員数は減りますが、1 校あたりの教員数は増えます。

また、1 つの学年に複数の学級が配置できますので、複数の教員でその学年の児童の指導や支援をすることができます。

例：1 つの学年が1 学級＝1 人の教員がその学年の児童を指導する。

1 つの学年が3 学級＝3 人の教員でその学年の児童を指導できる。

さらに、コミュニティ・スクールの機能を生かし、地域住民が学校の教育活動に参加することでより多くの目で児童を指導することができます。

多くの人と接することで、豊かな人間性の育成にもつながります。

Q 校長の人数はどうなるのか。

- A 施設隣接型小中一貫校（毛呂山中学校区）では小学校、中学校それぞれに校長を置きます。
- 施設一体型小中一貫校（川角中学校区）には校長を1 人とします。
- 教頭については、施設隣接型、施設一体型ともに、小学校、中学校それぞれに置きます。

Q P T A活動はどうなるのか。

A 教育委員会からも情報提供し、それぞれの中学校区のP T A本部役員等を中心に検討していきます。

通学

Q 学校からの距離が遠くなる児童はどうすればよいのか。

A 一定の距離を超える児童に対しては、いずれの統合小学校からもスクールバス等を運行する予定です。(3kmを基準)

【対象地区】

◆毛呂山中学校区：目白台1丁目・2丁目、箕和田、滝ノ入、阿諏訪、大谷木、宿谷、権現堂

◆川角中学校区：目白台3丁目・4丁目、東原団地、苦林、玉林寺
3km以内については、今まで通りの通学班で登校します。

中学校は、今まで通りの登校となります。

なお、現在、安全な登下校についての配慮事項について、小・中学校の教員が検討しています。(例：小・中学生と一緒に登校する等)

通学路については、今後検討していきます。

授業・学校生活

Q 小学校と中学校の1時限の授業時間が違うが、どのように対応するのか。

A 小学校は45分授業、中学校は50分授業です。

日課表を工夫することで、時間のずれを調整していきます。

日課については、現在小・中学校の教員が検討しています。

(例)・1時間目、3時間目、5時間目の開始時刻をそろえる。

・清掃は、小中学校ともに給食後に実施する。

Q 体育の授業、休み時間、放課後などグラウンドや体育館は、安全に使用できるか。【更新】

【施設一体型】

A 川角中学校西側を敷地拡張し、小学校用のグラウンドとして整備予定です。

そのため、授業、休み時間、放課後もグラウンドは、安全に使用できます。

体育の授業における体育館の使用については、時間割を調整し、安全に活動できるよう配慮します。(体育館、武道場も使用できます。)

Q 川角中学校区では小学生が中学生と同じ敷地内で活動するが、そのことに問題はないのか。

A それぞれの活動に支障をきたさないように、中学生と小学生のエリア分けを行う予定です。

Q 増築校舎には職員室がないが、防犯上の問題はないのか。【施設一体型】【更新】

A 増築校舎に第2職員室を整備する予定です。

Q 増築校舎には、1～4年生の更衣室はないのか。【施設一体型】

A 1～4年生が更衣のために使用する教室については、検討します。

Q 増築校舎の多目的室で理科、図工、音楽の授業を行うことは可能か。【施設一体型】

A 多目的室に学習教材等を整備し実施する予定です。
中学校校舎の特別教室（理科室、音楽室等）を使用することも可能です。

Q プールの授業についてはどうするのか。【施設一体型】【更新】

A 水泳の授業については、民間に委託し、民間施設で水泳授業を実施することを検討しています。

Q 図書室の利用はどうなるのか。【施設一体型】

A 小学校・中学校それぞれに図書室を設置する予定です。小学生が中学校の本を読むことも可能になります。

Q 教科担任制はどの学年で、どの教科で導入するのか。

A 5年生から積極的に教科担任制を実施します。教科担任制を行う教科を決めて実施します。（令和6年度：理科・外国語・音楽等）
小学校、中学校の教員に兼務発令をすることで専門の教科を指導することができます。

Q 小学校高学年に一部教科担任制を導入すると、子供たちにとってどのようなよさがあるのか。

A 中学校は、各教科の免許を持った教員が授業を行っています。この教科担任制のよさは、より専門的な授業を行うことができるだけでなく、生徒にとって困ったときに様々な教員に相談することができます。小学校高学年における一部教科担任制とは、例えば、1組担任が社会担当、2組担任が理科担当となり授業を交換することで、1組の理科に2組担任が授業に来るようにするやり方です。さらに、施設一体型、施設隣接型になることによって、中学校教員が小学校において専門教科の授業を行うことも可能となります。

Q 教科センター方式とは何ですか。

A 「教科センター方式」とは、「英語教室」「数学教室」のように教科ごとに教室が決まっている方式です。教員が教えるクラスに合わせて教室を移動するのではなく、生徒が受ける教科によって教室を移動します。生徒が受け身で待っているのではなく、自ら学びに行くという姿勢が育まれます。

Q 朝会は全校児童生徒が集まるのか。【施設一体型】

A 全校朝会は全員参加する予定です。音楽朝会、体育朝会など各種朝会は曜日を決めて行う、小学校、中学校のみで行う等、検討していきます。

学校行事

Q 入学式や卒業式はどうなるのか。

A 小中一貫校では、小学校と中学校の区切りがありますので、小学校では小学校の入学式・卒業式を、中学校では中学校の入学式・卒業式を行う予定です。

Q 運動会・体育祭、校内音楽会などの学校行事はどうするのか。

A 小学校、中学校と別日程で行う予定です。互いに見合うなどの方法も検討します。
遠足、宿泊的行事については、小・中学校それぞれで行ってきた行事をそのまま継続する予定です。

Q 保護者会（授業参観・懇談会）はどうするのか。

A 日程が重ならないように実施する予定です。

Q 個人面談や三者面談はどうするのか。

A 日程を合わせて実施する予定です。

その他

Q 小中一貫校開設に向けて、子供たちの準備期間のようなものはあるのか。

A 小小の交流、通学等、計画を立て、児童生徒が見通しがもてるよう実施する予定です。

Q 学校までの距離が遠くなり、授業参観や学校行事等で、保護者が車で学校に行く場合の駐車場の確保はできるのか。

A 可能な限り、徒歩や自転車での来校をお願いしますが、近隣の駐車場の借用などを検討します。

Q 学童保育は、どうなるのか。

A 毛呂山中学校区については、毛呂山小の校内学童保育所になります。川角中学校区は敷地内に新たな校内学童保育所を建設予定です。

Q 廃校になった小学校の校舎はどうなるのか。

A 校舎の利活用につきましては、今後、町部局が中心となって検討してまいります。

Q スポーツ少年団の活動はどうなるのか。

A 部活動と調整し、校庭等で活動することが可能です。
当面の間は小学校施設を利用し今まで通りの活動が可能です。

Q 体育用具の置き場所が足りないのではないか。【施設一体型】

A 武道場と体育館で使用できるものを精選し置き場所を確保していきます。